授業づくり研修講座　実践レポート　　　　　　　　　　立野台小学校　　山岸真喜子

単元名　第1学年「ねえ、どっち？」

実践のポイント（工夫）

・理由の書き方のパターンを覚えさせた。

　**「なぜかというと・・・からです。」「わけは○つあります。一つ目は・・」**等。

・書く活動に慣れさせるため、朝自習の時間を使って数回短作文を書いた。

テーマは、「あなたの家族について、先生に教えてください。」

「お休みの日にあった出来事を、先生に教えてください。」

「運動会で頑張りたいことを、おうちの人に伝えましょう。」

実践内容　「ねえ、どっち？」（指導書通りに扱うと「話す」の内容）

①ねこといぬ、どっちがすき？

　まずは数人に口頭で理由を言わせ、分かりやすく伝えるための方法として、**「ぼくは、ねこよりもいぬのほうがすきです。なぜかというと、・・からです。」**というパターンを教え、作文用紙（90マス程度の物）に書かせた。

　②ドッチボールと大縄跳び、どっちがやりたい？

　　前回の作文で、たくさん理由を書いた児童がいたため、**「わけは、○つあります。一つ目は・・からです。」**というパターンも追加して指導した。

③空飛ぶほうきと消えるマント、どっちがほしい？

　④「ねえ、どっちがすき？」安江リエ文、降矢奈々絵、福音館書店、２００２年の読み聞かせ

　⑤自分たちで二者択一の問題を作り、ノートに書く。

　　「外遊びとおうちで遊ぶのどっちがいい？」「ディズニーランドとディズニーシーどっちに行きたい？」「スポーツの試合を観に行くのと映画を観るのどっちがいい？」「おやつに食べるのはプリンとホットケーキ、どっちがいい？」「うんていで遊ぶのと、のぼり棒で遊ぶの、どっちがいい？」「テレビを見るのと漫画を読むのどっちがいい？」・・・等がでた。

　⑥（１）海とプール、どっちがすき？

　　（２）お菓子の家と空飛ぶ家、どっちがいい？

　　前回書いたノートよりよい物を２つ、クラス全体で考えた。（１）、（２）どちらから考えてもよいことにした。

振り返り（成果や課題）

成果

・どちらか選ぶという単純な作業だったので、児童が楽しんで取り組めた。

・書くことに慣れ、他教科の感想文等でも以前より長く文が書けるようになった。

・書き方をパターン化したことで、書くことが苦手な児童も、何とか書き出し始めることができていた。

課題

・作文用紙における句読点の位置や、内容が変わった時に1マス下げるといった指導が徹底できなかった。1年生にどこまでの完成度を求めるべきか迷った。

　・個人差への対応。（ひらがなが定着していない児童もいるため。）

